

都道府県名	山形県
-------	-----

学校の概要

学校名	南陽市立沖郷中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	3	2	10	21
生徒数	57	85	92	3	237	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に生きる生徒の育成
 ~ かかわりあいを大切に、個を生かした指導の実践を通して ~

2

. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

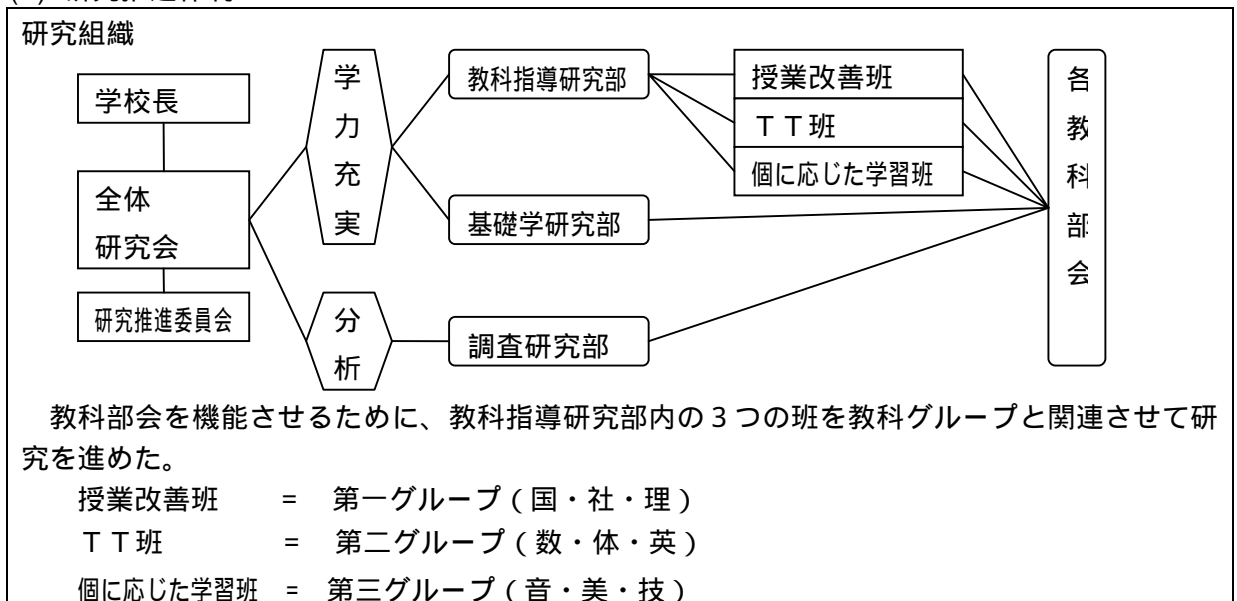
- ・全学年・数学 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・全学年・英語 生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。
- ・全学年・体育 学校として、該当教科に関する研究実績があるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 教科を中心に、かかわりあいの中で、生徒一人ひとりが自ら課題を持って意欲的に学習に取り組む方策を実践的に研究する。</p> <p>研究の見通し（仮説） 学習意欲の向上のために下記のことを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を喚起する 生徒指導の三機能を生かす ・関わり合いを深める 生徒と生徒 教師と生徒 生徒と題材（課題） <p>研究の内容・方法 学力充実・向上のための教科指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の喚起・基礎学力の充実 ・授業の指導計画・指導過程の見直しと工夫 ・評価活動のあり方 ・教科部会の充実 <p>教材開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心の喚起 ・個を生かす題材、課題開発 ・選択授業の教材、題材開発 ・T T 指導の教材、題材開発 ・お互いの良さを認めあえて、豊かな人間関係を築く授業形態の開発 <p>実践記録の集積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態調査と分析 ・実践活動の記録と集積
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 個を生かした指導の実践を進め、生徒一人ひとりがひたむきに課題解決に向けて努力し、確かな学力が身に付く指導法を実践的に研究する。</p> <p>研究の見通し（仮説） 確かな学力の育成のために次のことを行う。 ・個を生かす ・課題の個別化・少人数・習熟度・発表の機会の工夫</p> <p>研究の内容・方法 きめ細かな教科指導 ・T T指導の充実・少人数指導の実施・習熟度別指導の実施・個別指導の充実 きめ細かな指導を実現させる教材の開発 ・T T指導の教材の充実 ・少人数指導・習熟度別指導・個別指導における教材の開発 ・基礎的事項の習得の徹底を図る教材の工夫</p> <p>実践記録の集積 ・生徒の実態調査と分析 ・実践活動の記録と集積</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>研究を進める中で下記の面で教師の意識が変わってきた。 新指導要領の理解が深まってきている。これにより、評価法や学力のとらえ方について教科部会を中心に整備されてきた。 授業研究会を全教員が行い、授業改善の意識が高まってきた。 このような中で生徒にアンケートを実施し、変容について調査した。その結果、次のことが成果として現れてきた。 生徒の学習に対する取り組みや各教科の理解度・満足度が高まってきた。（数値が1学期より2学期の方が確実に上がっていた事は今年度の成果であると思われる。） 1学期終了時にアンケートを実施し、その結果から課題を把握した事で2学期の取り組みに生かす事ができた。</p>
--

T.Tの授業についても、生徒はおおむね高い評価をしている。
基礎学力を付ける取組として行った「漢字」・「計算」の学習については、本来のねらいである基本的な学力の向上と学習に取り組む姿勢を作ることができたという回答が多数を占めた。

【授業についてのアンケート】

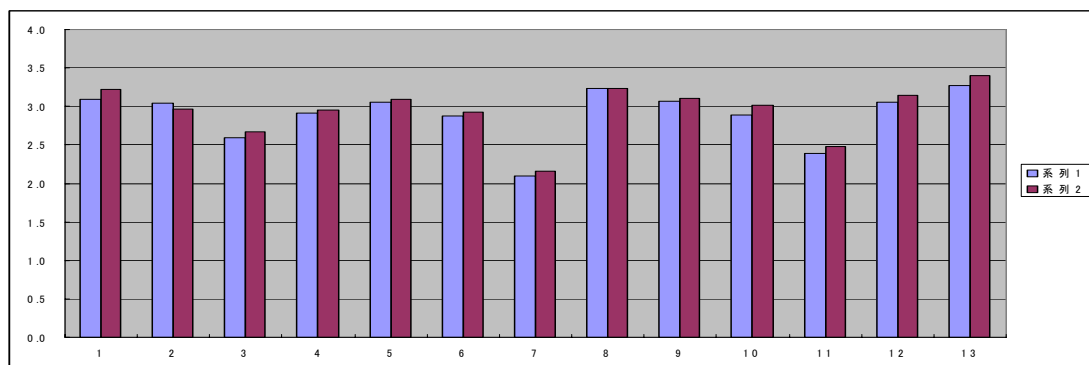
1学期、2学期の終了時に教師・生徒の授業における意識調査を行なった。

(7月・12月実施)その結果は以下の通りである。

{アンケートの記入にあたって 大変良い...4 良い...3 まあまあ...2 まだまだ...1 }

生徒の意識調査(全校生徒調査 結果はその平均値)

No.	項 目	1学期	2学期
1	チャイム着席ができて、学習用具の準備ができた。	3.1	3.2
2	はじめと終わりの挨拶や氏名の時などの返事がしっかりできた。	3.0	3.0
3	期限まで課題・作品を提出できた。	2.6	2.7
4	先生や発表者を見て話を聞くことができた。	2.9	3.0
5	語尾(「～です」)をしっかりいうことができた。	3.1	3.1
6	発表の声、みんなに聞こえる大きさと発表できた。	2.9	2.9
7	積極的に発表できた。	2.1	2.2
8	他の意見を冷やかしたりせずしっかりと聞くことができた。	3.2	3.2
9	わからないことを友達などに積極的に質問できた。	3.1	3.1
10	他と協力して問題解決に努力することができた。	2.9	3.0
11	自ら課題を見つけて取り組んだ。	2.4	2.5
12	授業に集中して取り組んだ。	3.1	3.1
13	学習内容をノートにしっかり書き、整理できた。	3.3	3.4



生徒の各教科の理解度・満足度
(全校生徒調査 平均値)

T.Tの授業について
(全校生徒調査 人数)

No.	教科名	理解度		満足度	
		1学期	2学期	1学期	2学期
3	数学	3.0	3.1	3.1	3.1
5	英語	2.8	2.6	2.8	2.6
8	保健体育	3.3	3.3	3.2	3.2

	1学期	2学期
とても好き	29	22
好き	87	113
まあまあ	92	67
嫌い	15	24

* アンケートの回答人数 1学期 223名 2学期 226名

2. 今後の課題

本年度は、研究初年度であり、少人数指導や習熟度別の指導の体制をとることが困難であった。きめ細かな指導を通して向上が期待できる生徒が多く見られるので、かかわりを大切にしながら下記の点で研究を深めたい。

指導体制の確立

よりきめ細かな指導を実現させるための少人数指導・習熟度別指導を可能にする指導体制の確立。

評価を生かした授業改善

きめ細かな指導を支える評価の工夫

教材の開発

各教科において、基礎的・基本的事項の再確認を行い、基礎・基本の徹底を図るための効果的な教材の開発を行う。また、発展的教材についても開発を行う。

学力等把握のための学校としての取組

生徒の到達度について理解を深めるとともに、指導法の改善および補充を必要とする生徒を把握し以後の指導に生かすことを目的として、標準学力テスト(NRT)を全学年で実施。実施時期は4月。

フロンティスクールとしての研究成果の普及

(1) 本年度の実績

授業研究会の公開 場所 南陽市立沖郷中学校
平成15年9月11日(木) 授業研究会(数学・理科・特別支援生活・技術家庭)
公開対象 市内全小中学校
平成15年10月6日(月) 授業研究会(英語・保健体育)
公開対象 置賜地区全小中学校
平成15年11月19日(水) 南陽市教職員研究発表会にて発表(数学・理科・学力向上)

(2) 今後の予定

研究紀要作成
平成16年3月発行予定 市内全中学校に配布
ホームページに研究のページを開設
平成15年度末より開設の予定
公開研究発表会 場所 南陽市立沖郷中学校
平成16年10月22日(金)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|--|--|-------|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | <input checked="" type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 | 無 | | |